

# ひなた訪問看護ステーション

那須塩原市大黒町1-1

## 施設アピール

住み慣れた自宅で暮らしたい、病气や障害があっても、安心して生活したい、そんな思いを持った方々のために、少しでもお役に立ちたいと思っています。

相談、訪問依頼をされれば、どんな事例でも対応する姿勢でいます。

その人の生活に密着し、その人の中に眠る能力や家族力に働きかけて、健康回復を助けること、これは看護の得意分野です。

とにかく、何でもご相談ください！



ほっこりする手作り感いっぱいのお受付窓口です。

## 施設の役割や特徴

在宅療養する方々が確実に増えてくる中で、地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割は大きく、やりがいのある分野と認識しています。

- ☆可能な看護体制
- ・どこでも連絡帳の活用
- ・24時間訪問看護体制
- ・ターミナルケアおよび在宅看取り

- ・精神科領域の訪問看護
- ・重症小児の在宅看護
- ・PCAポンプ対応
- ・土日祝日、早朝、夜間、深夜等要相談で対応します。麻薬(内服)による疼痛管理も対応可能です。

## 連携している主な医療機関

近隣の管間記念病院、国際医療福祉大学病院、市内診療所等主治医からの訪問依頼が多いです。地域包括支援センター、那須赤十字病院からはまだ依頼はない状況です。

## ケアマネジャーとの連携で



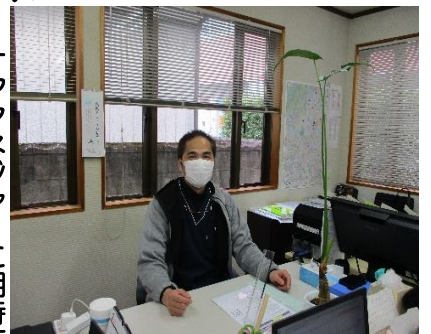
## ちょっと気になったこと

訪問看護依頼や介入時期については少し遅い場合があります。特にターミナル期は、状態が良い時期に対応したいと思いますが、関りを持った時は、もうすでに遅く、死の直前で、あつという間に亡くなる場合があります。私達も何らかの支援ができたのではと、悔しい思いもします。

家族にターミナルケアの説明をし、家族の覚悟について確認してほしいと思います。夫や妻に、最期の説明は看護師がしてほしいので、私達を利用してほしいと思います。そうでない、在宅で看取りと想っていても、最後は、病院に救急搬送されてしまうことが多いです。

家族が、訪問看護と訪問介護の区別がつきにくく、いつの間にか役割がヘルパーに代わる場合があります。サービスの提供内容をよく理解してほしいと思います。

利用者数割合  
医療保険：5割  
介護保険：5割  
所長 串間一彦様



すっきりと片付いた室内で、さわやかさを感じました。いつものスマイルが、お仕事への姿勢に繋がりますね！

ケアマネジャーに期待すること  
生活していく上で衣食住も大切ですが、健康上の優先順位があるので、体の変化に気づいて、ケアの内容や回数、時間を見てほしいと思います。状態の変化時、急変時の対応は、ぜひ相談してください。  
サービス計画を作成する上では、それぞれの役割を明確にして、内容を分担してほしいです。  
どんなことでもいいので、お気軽にご連絡、ご相談ください。

お世話になっている方々に  
フィードバックを  
していきましょう  
ハウレンソウは貴方から

(口記者)



### 関わった事例で心に残ったこと

現在も関わっている事例です。病院から連絡があり、生活環境劣悪、経済状況貧困、対人関係が取れにくい、疾患は脳出血、精神疾患があり、兄弟で暮らしているケースです。

このようなケースを困難事例というのでしょうか。

訪問していく中で、まずは人間関係の構築、コミュニケーションをいかにとるかが最優先でした。看護の提供よりも、まずはサービ

ス提供が必要なケースでした。時間と労力もかかりますが、少しずつ関わり方もわかってきています。

どんな事例も対応することがモットーですので、今後も継続支援をしていきます。

コロナ過で、スマートフォン・タブレット端末を活用することで3密を回避しています。

- ・アイパッドで情報収集や共有
- ・申し送りを廃止し、必要時はフェイスタイムで顔見ながら
- ・直行、直帰が可能
- ・短時間勤務スタッフのメリット
- ・時間を有効に使える
- ・遠方のスタッフは、事務所への移動時間を訪問時間に充てることができる
- ・等々工夫をされています。

スタッフがそろって時間帯は少なく、情報交換や利用者の支援対応の確認など、貴重な時間となります。お昼休みが連携会議です。

また、少人数ならではの、誰が担当しても大丈夫なように、密な連携と、手厚い看護ができますねと、話されていました。

お昼ご飯を食べた後、気になるケースの支援内容や対応を話し合っています。どうぞゆっくり休めますように・・・

豆記者



3台のひなた号  
白・クリーム・ピンクのかわいい訪問車です。  
地域に住む方々の、療養生活を支える伴走者に乗せて、今日もこの地域のどこかを回っています。